

## 学 Y のインドスタディキャンプとは？（趣旨）

1991年に2名のキャンパーから始まったこのインドスタディキャンプは、日本YMCA同盟の主催の下、今回で24回目を迎えます。これまでに延べ164名の学生たちを派遣してきました。このキャンプでは、南インドの都市部であるバンガロールとチェンナイ、そして村部であるカニヤクマリに滞在し、人々との出会い、異なる文化での体験、差別や貧困といった社会的課題についての学びを通して、自らの生き方を考えます。

チェンナイやカニヤクマリにあるセントボニファスでは、貧困のゆえに家族と共に暮らせない子どもたちと共に過ごし、本当の「貧しさ」「豊かさ」とは何か、この世界の現



実を目の当たりにします。また、山積する社会的課題やより弱い立場の人たちのために、草の根で働く人たちや団体（YMCAやマザーテレサブランチなど）への訪問では、「誰かのために生きる」「人に仕える」働きに触れ、私たちに何ができるのかを問われるでしょう。多くの出会いと学びの積み重ねから、キャンパーたち一人ひとりにこの社会や価値観への問題意識が芽生えます。またキャンプ中は、聖書を共に読みながら、一日の振り返りと自らの体験や思いを分かち合います。一人ひとりの問題意識や考えを深く思いめぐらし、互いの違いをも受け入れ合う対話の時間により、このキャンプをより深く味わうことができます。

さあ、インド／アジアに出会い、新しい自分や生き方に出会う旅に出かけましょう。

<主に滞在する都市> 過去例

バンガロール（カルナタカ州）

カニヤクマリ、チェンナイ、トリッチー

（タミルナドゥ州）



## キャンプの目的とは？

- ①アンブマナイボーイズホームやセントボニファス※での出会いと体験を通して、アジアへの視点を育てる。  
（※現地受入れ責任者スレッシュ氏が運営する、貧困家庭の子どものための施設。4歳～16歳までの子どもが共同生活している）
- ②インドの学生キリスト教運動（インド SCM）や現地の学生との交流から、インドの社会的状況・課題の学びを深める。
- ③YMCA やマザーテレサの家など草の根で活動する団体を訪ね、インド社会の現実とNGOの働きの大切さを学ぶ。
- ④帰国後、報告書や報告会を通して、自らの体験を日本の学生YMCAや都市YMCAの学生・青年と分かち合い、各地のYMCA活動に活かす。

## 実施期間は？

- 2020年2月18日（火）～3月7日（土）  
※1/26（日）～27（月）の事前オリエンテーションへの参加は必須となります（1泊2日・東京）  
※2月18日（火）昼集合・直前研修、3月7日（土）直後研修後解散  
※なお、都合により日程が変更となる場合はご了承ください。

## インドでの滞在先は？

- インド SCM ハウス：カルナタカ州バンガロールにある、学生キリスト教運動（SCM）の研修施設
- セントボニファス：タミルナドゥ州カニヤクマリ、チェンナイとトリッチーにある、家族と暮らせない子どもたちが共同生活する施設  
※宿泊は2～3名で1部屋、ベットや床に直接マットを敷く。食事は施設で用意されたカレー中心となる。原則、現地の文化風習に従う。

## 参加費用は？

- 220,000円（航空券、現地宿泊・食費・事前事後研修宿泊費・資料費等含む）※燃料費高騰のため22万円を超える場合あり  
※その他、ビザ取得申請・海外旅行傷害保険・予防接種代、国内移動費等、準備にかかる個人費用は含まれません。  
※ワイズメンズクラブ国際協会東西日本区の支援金を受け実施。

## 募集条件について

- 募集人数：8名前後（最小催行人数6名）  
※グループの構成上、書類選考有り
- 学生 YMCA および YMCA の活動に関わり、所属 YMCA 責任者の推薦を受けられる方（推薦文必須）
- 趣旨・目的を理解し、キャンプ前後の準備や報告書作成などの責任を果たせる方。
- グループ行動ができる協調性があり、異文化社会での生活（食べ物・気候・移動）に順応性がある方。
- 英語のコミュニケーション（日常会話）が可能な方。  
※未成年者は保護者の同意が必要です。

## 申込方法・締め切りについて

- 提出書類：
  - ①参加申込書（所定用紙）
  - ②パスポートのコピー（顔写真ページと最後のページ）  
※パスポートを未取得/取得中の場合はご連絡ください。
  - ③ビザ取得申請書（所定用紙）
- 申込〆切：**2019年12月20日（金）必着**  
※なお、最少実施人数（6名）に満たない場合や、国際情勢の影響等で中止となる可能性もありますので、ご了承ください。

## 【お申し込み・お問い合わせ】

公益財団法人日本 YMCA 同盟

ブランディング推進協力部学生 YMCA

担当：横山由利亜・柳原さつき

〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町2-11

TEL：03-5367-6645 FAX：03-5367-6641

E-mail：info@ymcajapan.org

日本 YMCA 同盟 HP：www.ymcajapan.org/

## ～過去参加者の声（抜粋）～

■お金をレジで支払うとき、私の脳裏にはこれまでであった物乞いをする人々の顔がよぎった。赤ちゃんを抱いていた女性、片足のない男性、バラを売り歩く少女たち、じゃれついてきた少年たち、窓の外から腕を伸ばしてきたお婆さん…。私は結局、お金を渡さなかった。しかしこれだけ 余っていたのなら、渡せたではないか。

（八十川環 京都大学 YMCA）

■私は、共同体の一員として、人間として人間らしく、他人の幸せのために今の自分に何が出来るかを考えて生きようと思った。そして、きっとそのように私も生きられるだろうと思う。インドの出会いが私にその生き方をするように引っ張って行ってくれる。

（鶴木康平 熊本大学 YMCA）

■「Hey! Sister!」という声で起きると大勢の子どもたちがいた。窓の外に見えた無数の顔の衝撃は今でも忘れられません。

（中略）次の日も早朝から礼拝に参加し、その後は子どもたちと遊びました。私はインディアンメイクや、歓迎の歌とダンスをしてもらってとても楽しみました。女の子たちは、年上の子が年下の子の面倒を見たり、小グループができていたり、日本の学童のようでした。

（東彩由海 盛岡 YMCA）

## キャンプスケジュール（過去例）

1日目	都内集合、直前研修、都内泊
2-5日目	成田発ーバンガロール着、フィールドワーク・講義・現地学生との交流・観光など、インド SCM 泊
6-10日目	夜行列車にてカニヤクマリへ移動、施設の子どもたちとの交流、マザーテレサランチ訪問、現地 YMCA 訪問、観光など、セントポニファス泊
11-13日目	車にてトリッチーへ移動、施設の子どもたちとの交流、フィールドワーク、観光など、セントポニファス泊
14-17日目	電車でチェンナイへ移動、施設の子どもたちとの交流、フィールドワーク観光など、セントポニファス泊
18-19日目	チェンナイ発-成田着、都内泊、直後研修、解散

## ここでしか経験できない「インド」

昨今、インドに行くことは難しくありません。学生 YMCA のインドスタディキャンプに参加しなくても、インドには行けます。ですが、あなたは、一人で、あるいは家族や友人とインドに行って、何を体験するでしょう。何を理解できるのでしょうか。観光客やバックパッカーとして現地に赴いても、なにかを感じた気になり、日本に帰国した後は、せいぜい素敵な旅行話や武勇伝として「インド」を語り、イメージを消費するだけでしょう。もちろん全員ではないのですが、少なくとも、私はそうでした。

インドスタディキャンプの引率者としてインドに訪問する前に、私は二度、インドに旅行していました。このキャンプで感じたのは、それまでの自分は「インド」の訴えかけるリアリティからずっと目を背けつづけてきたということでした。

なぜ学生 YMCA のインドスタディキャンプなのか？その答えは、私にとっては明確です。目を背けたくなるインドの実像を前に、安易な理解で終わらせず、一緒に悩み、時に喧嘩し、ともに泣き、ともに笑えるキャンパーやスレッシュ氏※という仲間とともに、インドの実像、そして、インドをまなざすくわたしと向き合えるからです。

毎晩の振り返りの時間、私と他のキャンパーが見た景色は同じだったはずなのに、吐露される考えや感情は全く違いました。この時間を通し、私はインドのリアリティ、さらに、日本社会や自分自身の問題に向き合うことができました。

もし、あなたが、誰かと一緒に、物事に真剣に向き合う時間を体験したいなら、きっとインドスタディキャンプはあなたにふさわしいでしょう。みなさんのご参加を心からお待ちしています。

※現地受け入れ責任者。本キャンプ開始当初から 20 年以上にわたり、学生 YMCA インドスタディキャンプを支えている大切な友人。

仲井間健太(第 23 回引率者)

## 2019年度 第24回 学生 YMCA インドスタディキャンプ<sup>®</sup> 〈募集要項〉

日程：2020年2月18日～3月7日  
場所：インド（カルナタカ州・タミルナドゥ州）



主催：日本 YMCA 同盟  
ブランディング推進協力部 学生 YMCA  
協力：学校法人アジア学院  
ワイズメンズクラブ国際協会東西日本区

